

2015年8月10日

日本共産党熊本県委員会

委員長 日高 伸哉
県議会議員 山本 伸裕
党県女性部長 芋生よしや
党北部地区委員会
玉名市議会議員 前田 正治

知事はJ R九州に対し、九州新幹線新玉名駅ホームの無人化計画撤回の要請を

《要請趣旨》

J R九州は九州新幹線の新玉名駅で、ホームへの駅員の配置を取りやめ、無人化する方針を表明しました。経費節減策の一環で、10月1日から実施するとしています。

現在、新玉名駅では上下ホームに駅員一人ずつ配置され、新幹線の車両後方の車掌と一緒に乗降時の安全確認のほか、線路への転落を防止するホームドアの開閉など行なっています。

J R九州は2016年度中の株式上場をめざす中、赤字経営の収支改善策として在来線でも駅の無人化を大規模に進めています。3月には32駅が無人化され、在来線の560駅のうち半数の約280駅が無人化されました。新玉名駅のホーム無人化も、このようなコスト削減の一環であり、新幹線の駅としては全国初となる新玉名駅を皮切りに、他の駅でもホーム無人化を広げて行く方向が伝えられています。

しかし、J Rは公共交通機関であり、コスト削減が、安全性や公共性、利用客へのサービス提供よりも優先されるような事態が許されない事は言うまでもありません。

無人化計画に対し駅利用者側からは、「無人化されたら治安が心配」「夜が怖い」「介助が必要な人が安心して利用できなくなる」「新玉名駅は通過車両が多く、無人化されたら事故が不安」「わからないことを訪ねたくてもホームに駅員さんがいなければ困る」などの声が上がっています。また玉名市玄関口である新玉名駅の無人化は地元にとってもイメージダウンであり、多くの観光客に玉名市の魅力を発信し、山鹿・菊池・阿蘇地域との連携による観光振興やまちづくりの総合的発展をはかろうとしている地元の方々の努力に水を差すことになりかねません。

いっぽう、地元の住民団体が看板を市内各地に設置するなど、無人化反対の市民世論と運動もさっそく広がっています。

住民の不安の声に対し、J R九州の対応はきわめて不誠実なものです。玉名市議会は計画への賛否を明らかにし、J Rに伝える方針を決めましたが、同社はあくまで計画通り無人化を実施する方針だと伝えられています。また住民への説明会は行わないとし、不安の声に背を向けています。このような中で無人化計画の強行的な推進は決して容認できません。

熊本県としても、J R九州の一方向的な無人化計画を黙認するわけにはいかないはずですが、県は九州新幹線建設に伴い、2168億円余もの莫大な財政負担を行なってきました。いわば九州新幹線も新玉名駅も県民共同の財産であります。知事は、県民の頭ごなしに勝手に駅ホーム無人化を進める傍若無人な態度のJ R九州に対し、強く抗議すべきではないでしょうか。

知事におかれましては、新玉名駅ホームの無人化計画を撤回するよう、J R九州に要請されることを強く求めるものです。

以上